

第 19 回国際細胞学会議 開催結果報告

1 開催概要

- (1) 会 議 名 : (和文) 第 19 回国際細胞学会議
(英文) The 19th International Congress of Cytology (略称: ICC2016)
- (2) 報 告 者 : 第 19 回国際細胞学会議組織委員会 会長 青木大輔
- (3) 主 催 : 公益社団法人 日本臨床細胞学会、日本学会議
- (4) 開 催 期 間 : 2016 年 5 月 28 日 (土) ～6 月 1 日 (水)
- (5) 開 催 場 所 : パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
- (6) 参 加 状 況 : 66 カ国/6,105 人 (国外 728 人、国内 5,377 人)

2 会議結果概要

- (1) 会議の背景(歴史)、日本開催の経緯:

国際細胞学会は、1957 年にベルギーで設立された。19 カ国 27 名から成る創立者委員会によって学会の体制が整えられ、1961 年にはウィーンで第 1 回目の国際会議を開催した。

その後 3 年ごとに国際会議を行っており、本会議で第 19 回目を数える。

我が国では、第 13 回以来、18 年ぶり 3 回目の開催となった。本会議の誘致にあたっては、2009 年の立候補表明以来、官民支援体制による誘致促進活動の結果、2010 年に行われた国際細胞学会理事会における投票によって横浜での開催が決定した。これにともない国内の学会である日本臨床細胞学会学術集会が本会議と同時に開催された。

- (2) 会議開催の意義・成果:

細胞診は組織診とともに病理診断の両翼を担っている。近年の細胞診に関する学問の進歩と発展には著しいものがある。細胞診は単なる形態学や診断学にとどまらず、免疫細胞化学、分子細胞病理学、分子遺伝学といった研究など幅広い領域から得られた情報が統合され、従来の病理診断を補完することに加え、治療などに役立つ新たな情報を提供することが可能となっている。したがって細胞診断学は各種がん検診や病理診断に寄与するにとどまらず、医学のさまざまな領域と密接にかかわる学問である。

一方、国際細胞学会 (IAC: The International Academy of Cytology) は 50 を超える各国の細胞診断学に関連する団体が所属しており、我が国の日本臨床細胞学会もその一つである。本会議を通じて我が国での細胞診断学に関する研究成果を世界に発信するとともに、他国における先進技術や新たな知見を我が国にも積極的に取り入れることができた。また、我が国はアジア地域におけるトップランナーと位置づけられることからアジア諸国からの若い研究者を招聘し、アジアにおける細胞診断学の普及に努めることができた。

(3) 当会議における主な議題（テーマ）：

この度の第 19 回国際細胞学会議では、「New Innovative Technologies Changing Cytology」をメインテーマに、細胞診断の新たな開発の可能性やわれわれが進むべき革新的なあゆみの探索を主要題目として、研究発表と討論が行われた。

(4) 当会議の主な成果(結果)、日本が果たした役割：

この会議を日本で開催したことで、我が国における細胞診断学の先進性を全世界の研究者に大きくアピールし、多くの研究者の参画を促す絶好の機会となるとともに、我が国のこの分野の科学者が世界の多くの科学者と直接交流する機会を与えることとなり、我が国の細胞診断学に関する研究を一層発展させる契機となった。

(5) 次回会議への動き：

3 年後に開催予定の第 20 回国際細胞学会議（ICC2019）は、オーストラリアで開催されることとなった。

(6) 当会議開催中の模様：

初日は国内学会のプログラムがメインのため、多くの日本人参加者で会場が賑わった。特にがん免疫療法に関する特別講演は約 1,000 名におよぶ参加者が集まり注目度の高さが伺われた。2 日目以降は国際学会のプログラムもスタートし、海外からの参加者も多く来場した。1 人 1 台顕微鏡を観察しながら講義を受ける Workshop や、スマートフォンを利用したインタラクティブ形式の Slide Seminar など、聴講者参加型のセッションも大変人気であった。

(7) その他特筆すべき事項：

国際細胞学会（IAC : The International Academy of Cytology）は細胞診断学に関する臨床、教育、研究の国際協力を通じて細胞診断学の発展に貢献している。IAC の傘下には 50 を超える各国の細胞診に関連する団体が所属している。今回の第 19 回国際細胞学会議はこの IAC を母体として 3 年に一度、開催されている。これまでに開催された 19 回の主催国では我が国が 3 回目で最多となった。また、IAC の会員数も欧米諸国を抑えて我が国が最多であり、IAC における我が国の役割は大きい。日本人のアワード受賞者ものべ 7 名を輩出しており、我が国の細胞診断学が世界的な視野の点からもトップレベルにある。

3 市民公開講座結果概要

- (1) 開催日時：2016 年 5 月 28 日（土）16:00～18:30
- (2) 開催場所：パシフィコ横浜 会議センター1 階 メインホール
- (3) 主なテーマ、サブテーマ：女性からだ会議 2016
- (4) 参加者数、参加者の構成：200 名（中学生、高校生およびその保護者）
- (5) 開催の意義：

市民公開講座では、一般市民が、まずはその医療の発展や未来の貢献が、自分や家族の問題に対する解決や貢献だと認識するために「目の前に在る身近な課題」として、整理し提起していく必要があり、そして、そのためには個人目線でないができるか？を共有できる場を提供する。

(6) 社会に対する還元効果とその成果：

第1部では「乳がん・子宮頸がんの未来を考える」というテーマで講演やパネルディスカッションを行い、第2部では「誕生日には検診を！ママと子供の笑顔を守るからだの約束」というテーマでパネルディスカッションを行った。参加者には乳がん、子宮頸がんが身近な病気であることを伝え、検診で予防することの大切さを伝えることができた。

4 日本学術会議との共同主催の意義・成果

日本学術会議との共同開催となったことから、日本学術会議を通じての広報活動により、多くの参加者を得ることができた。また、オープニングセレモニーでは内閣総理大臣からメッセージもいただき、参加者にとって印象の残る会議とすることができた。ICC2016により、細胞診断学に関する研究者が一同に会する機会が設けられたことは、今後わが国の細胞診断学のさらなる発展に大きな影響を与えたものと考ええる。